

## 文書館の環境災害と防災に関するアジア地域セミナーに出席して

小川 雄二郎

文書館の環境災害と防災に関するアジア地域セミナーは平成3年10月27日より11月2日まで上海において開催された。日本から私と国立公文書館の小川千代子氏が出席した。

このセミナーはUNESCOの後援を受け、ICA及び中国国家档案局が主催したものであり、公文書館に及ぼす環境災害と防災に関するアジア地域における初めての会議であった。

### 《参加者》

会議の出席者は総勢70名程度であったが、講師陣が日本、英国、米国、独国、中国から招聘され、アジア地域からは北朝鮮、韓国、ベトナム、ミャンマー、インドネシア、マカオ、マレーシア、シンガポール、フィリピン諸国から参加



した。私を含む3名を除き、全員それぞれの国の国立公文書館からの参加であった。又中国各地の档案館から多くのオブザーバーが参加した。

### 《プログラム》

会議の主題は大きく、環境災害と自然災害に別れていたが、研究者サイドは温湿度管理、化学物質による影響や脱酸処理に関心が深く、多くの参加者は災害対策に関心を示した。初めに参加各国からカンントリーレポートを発表し、続いて講師陣から、

- 「環境公害防止の戦略と方法」(英国)
- 「マイクロフィルムの防災」(米国)
- 「文書館災害の予防、防災、復旧計画」(同)
- 「公文書館災害の防止」(中国)
- 「公文書館災害の実態と防止対策」(日本)
- 「ドイツ公文書館と環境」(独)

が報告された。

また会議のなかに2つの档案館の見学が用意されていた。1つは10月27日に開館式を行ったばかりの上海档案館であり、館員全員が玄関で出迎えるという盛大な歓迎を受けた。もう1つは蘇州近くにあり、日本の県立公文書館にあたる呉県档案館である。ここではキャンディーとみ

かんをごちそうになった。

### 《防災対策に関する経験の交流》

会議当初においては公文書館の災害対策について、何が問題なのか、共通のイメージを参加者は持たなかった。しかし筆者がスライドにより災害による被害の実例を紹介した後は、各国から公文書館の災害実例の紹介が多くなされ、さらにどのような対策を取るべきかの熱心な質疑応答がなされた。

例えば、本年中国を襲った水害で、上階に史料を移動させたりする事前の準備に気象警報が有効であったこと、崖崩れを事前に警告されたため、档案馆は流されたが史料は事前に撤去していて安全だったこと。フィリッピンではピナツボ火山からの火山灰がどうしても侵入してしまうこと、更に戦争による空爆から文書館を守

る方策など、さまざまな事例、問題が提起された。

このような経験の交流がなされ、その結果多くの国において公文書館が災害被害を受けていること、それらに対する対応方策の多くは場当たり的であり、防災対策の理念と方法を必要としていることが明らかとなった。

### 《我が国に期待されるもの》

今回の会議は中国で開催された。しかし我が国の史料保存に関する経験・体制と防災対策に関する先進性を考慮すると、このような会議は我が国で開催されることが望ましいと思われた。全史料協にぜひ期待したいものである。

(このセミナーの参加にあたり国際交流基金からの助成を得た)

(都市防災研究所)